

九月十五日「敬老の日」  
また、この日から一週間は「  
老人福祉週間」です。

お年寄りは、これまで永年  
にわたって社会に貢献してこ  
られました。長寿を心からお  
祝いするとともに、今後も今  
日までつちかかってきた知識と  
経験を社会に役立てていただ

# 「生きがい」づくりは みんなの手で 老人福祉週間

きたいものです。

こうしたことが、お年寄り  
の生きがいになると同時に、  
世代を越えた新しいコミュニ  
ケーションの場にもなるので  
はないでしょうか。

老人に生きがいのある社会  
を共に築いていきたいもので  
す。

## かけ足でやってくる 高齢者社会

現在、わが国の六十歳以上のお  
年寄りは約千四百万人で、総人口  
の一二%を占めています。

つまり、百人のうち十二人がお  
年寄りというわけですが、これが  
二十六年後の昭和八十年には、人  
口百人当たり二十人を超えると予  
測されています。国民全体の二割  
が、六十歳以上のお年寄りとい  
ことになるのです。

わが国の場合「高齢者社会」へ  
のテンポがいかに速いか、諸外国

と比較すると一目りよう然です。  
たとえば、国民全体に占める六  
十歳以上の人口の割合が、八%か  
ら一八%に増えるまでの期間を比  
べると次の通りです。

フランス	一七七年
スウェーデン	一〇三年
イギリス	五六年
ドイツ	五四年
日本	四〇年
つまり、フランスが百七十七年	

かかっているところを、わが国は

四十年で到達してしまうのです。  
それは昭和七十年と予測されてい  
ますが、高齢者社会は文字通り「  
かけ足」でやってこようとしてい  
るのです。

ところで、昭和七十年に六十歳  
になる人、つまりお年寄りの仲間  
入りをされる方は、いま働き盛り

の四十四歳です。

お年寄りの福祉を進め、生きが  
いのある社会を築くことは、世代  
を越えた連帯の中で、わたしたち  
一人一人が、力を合わせて解決し  
ていかなければならない課題とい  
えましょう。



## 家庭での役割分担を決める

### お年寄りに生きがいを

— そのおばあちゃん、毎朝  
掃除をすることが、家庭の中の  
自分の役割と考え、何よりの生き  
がいと感じていました。

ところが、ある日お嫁さんが  
「そんなこと、しなくていいの」  
と、掃除機を取り上げてしまった  
その日から、おばあちゃんは強度  
の便秘に悩まされ、とうとう寝こ  
んでしまいました。それが、また

掃除をさせてもらうようになった  
ら、ウンのように便秘は治ったと  
いうのです。

— ある農家のできごと。農繁  
期でネコの手も借りたいほどの忙  
しいとき、その家の老人は何かの  
役に立ちたいと田んぼに出て行っ  
たのですが、「邪魔になるから、  
引っ込んでいて」といわれ、明る  
る朝、自殺を試みたということだ

「何もしないで、ジツとしてい  
ればいいのよ」という言葉ぐらい  
お年寄りにとって残酷な言葉はあ  
りません。

のけ者にされないこと、つまり  
自分は役に立つ存在であるという  
自信と、自分のことは自分でやれ  
るという気負いが、日々お年寄り  
の心の張り、生きるバネになっ  
ているのです。

家庭では、お年寄りの役割分担  
をみんなで考えましょう。お年寄  
りは自分の役割を通して、家族と  
の接点を持ち、生きがいを見いだ  
していくのです。